

短時間変温処理による鉢花の省エネ栽培技術

秋冬季の施設栽培における暖房費節減は重要な課題です。短時間変温処理（EOD-heating等）は明期と暗期の移行する時期に温度を変えることにより、開花時期や草丈を調整できる技術であり、暖房費の大きな節減効果が期待できます。しかし、作目ごとの最適な処理方法の研究は、まだ充分ではありません。

そこでカーネーション、ハイドランジアについて短時間変温処理の検討を行いました。その結果、最低温度が16℃の対照区と比較して、日没後4時間20℃とし、その後12℃まで下げても品質の低下をまねかないことが明らかになりました。ファレノプシスでも同様の結果が得られたため、これによる暖房費節減効果は概ね15%と試算され、省エネルギー栽培技術が確立できました。

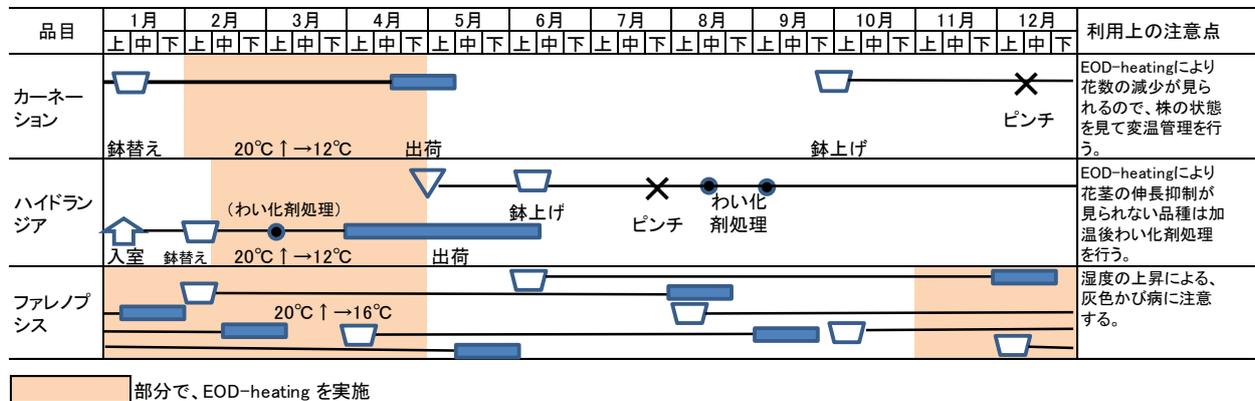


図1. EOD-heatingの利用マニュアル



図2. EOD-heating がハイドランジア「マナスルピンク」の生育・開花に及ぼす影響

(園芸研究所 野菜・花担当 TEL 0480-21-1115)